

日本薬局方
消毒用エタノール

サラヤ消毒用エタノール
 〈外皮用殺菌消毒剤〉

※2008年9月改訂(第3版)
 ※2008年3月改訂(第2版)

日本標準商品分類番号 872615

承認番号 21600AMZ00232000
 薬価収載 2004.5
 販売開始 2004.6

貯 法: 保存条件 避光して、火気を
 避けて保存する。
 容 器 気密容器

【禁忌】
 (次の部位には使用しないこと)
 損傷皮膚及び粘膜(刺激作用を
 有するので)

【組成・性状】
 本品は15℃でエタノール(C₂H₆O:
 46.07)76.9~81.4vol%を含む(比
 による)。本品は無色澄明の液で、
 特異なにおい及びやくような味か
 ある。本品は水と混和する。本品は

サラヤ株式会社
 大阪市東住吉区湊里 2-2-8
 TEL.(06)6797-2525

500mL



引火性
火気厳禁

危険物第4類
 アルコール類(エタノール)
 水溶性・危険等級II

日本薬局方
消毒用エタノール

サラヤ消毒用エタノール
 〈外皮用殺菌消毒剤〉

は点火するとき、淡青色の炎をあげて燃える。本品は揮
 発性である。

【効能・効果】
 手指・皮膚の消毒、手術部位(手術野)の皮膚の消毒、
 医療機器の消毒。

【用法・用量】
 本品をそのまま消毒部位に塗布する。

【使用上の注意】
 1. 重要な基本的注意
 (1) 本剤が眼に入らないように注意すること。眼に入った
 場合は直ちによく水洗すること。
 (2) 広範囲又は長期間使用する場合、蒸気の吸入
 に注意すること。[エタノール蒸気に大量に又は繰り返し
 さらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こす
 ことがある。]
 2. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度
 が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明	
過敏症 ^{注)}	発疹等	注)このような症状があらわ れた場合には、使用を 中止すること。
皮膚 ^{注)}	刺激症状	

3. 適用上の注意
 (1) 投与経路: 外用にのみ使用すること。
 (2) 使用時: 1) 同一部位(皮膚面)に反復使用した
 場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるの
 で注意すること。2) 血清、膿汁等のたん白質を凝固さ
 せ、内部にまで浸透しないことがあるので、これら

日本薬局方
消毒用エタノール

サラヤ消毒用エタノール
 〈外皮用殺菌消毒剤〉

が付着している医療器具等に用いる場合には、十分に
 洗い落としてから使用すること。(3) 合成ゴム製品、合
 成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等には、
 変質するものがあるので、このような器具は長時間浸
 漬しないこと。(4) 本剤は引火性、爆発性があるため、
 火気(電気メス使用等も含む)には十分注意すること。
 また、電気メスによる発火事故が報告されているので、
 電気メス等を使用する場合には、本剤を乾燥させ、
 アルコール蒸気の拡散を確認してから使用すること。
 4. その他の注意 承認外経皮的エタノール注入療法
 (PEIT)使用例で、注入時の疼痛、酷刺感、発熱、本剤の
 局所外流出による重篤な眩暈、
 腹腔内等での出血、肝硬変、
 肝不全等が報告されている。

【薬効薬理】
 本剤は、使用濃度において栄
 養型細菌(グラム陽性菌、グラ
 ム陰性菌)、酵母菌、ウイルス等
 には有効であるが、芽胞(炭疽
 菌、破傷風菌等)及び一部の
 ウイルスに対する効果は期待
 できない。

【取扱い上の注意】
 〈安定性試験〉¹⁾ 加速試験(40℃、
 相対湿度75%、6ヶ月)の結果、
 外観及び含量等は規格の範囲内
 であり、通常使

MADE IN JAPAN

GS1-RSS JAN



(01)14987696441054



49 87696 44105 7

日本薬局方
消毒用エタノール

サラヤ消毒用エタノール
 〈外皮用殺菌消毒剤〉

の市場流通下において3年間安定であること
 が推測された。

*【主要文献】

1) サラヤ株式会社 バイオケミカル研究所 資料

300

*【文献請求先】

サラヤ株式会社 学術部
 〒541-0051 大阪市中央区備後町4-2-5
 TEL.(06)4706-3938

ゴミ75%削減 減容ボトル

使用後 手で簡単に折りたたみ
 ゴミの減容化にお役立てください。

200

- ① ボトルの真ん中を両手で持ち つぶす。
- ② しっかりと押さえ込んだ後、空気が入らない
 ようにキャップをしめ、廃棄する。



100

製造番号: 底面記載 容器 ボトル: プラ (PE)
 使用期限: 底面記載 材質 キャップ: プラ (PP)
 ラベル: プラ (PE)